

イエスのことば 第 69 回 神の命令に従う姿勢

しもべが命じられたことをしたからといって、主人はそのしもべに感謝するでしょうか。同じようにあなたがたも、自分に命じられたことをすべて行ったら、『私たちは取るに足りないしもべです。なすべきことをしただけです』と言いなさい。」（ルカ 17：9～10）

□文脈の確認

1. イエスの公生涯 3 年半。起承転結の四部構成に分け、時間順でイエスのことばを学ぶ
 - (1) 起：紀元 26 年秋の受洗から、翌 27 年春のメシア宣言を経て、宣教開始まで
 - (2) 承：メシアとしての権威を現わすも指導者層の拒否を受ける
 - (3) **転**：紀元 29 年春から約 1 年、弟子訓練の時期
 - (4) 結：紀元 30 年 4 月、エルサレム入城・十字架・復活、復活から 40 日後に昇天
2. **転**の部
 - (1) 紀元 29 年春から秋までの半年、異邦人地域へ 4 回の旅行。目的は休息と弟子訓練
 - (2) 秋 10 月の仮庵の祭りから、冬 12 月の宮清めの祭りまでの約 3 か月
 - (3) **翌年 4 月 1 日までの約 3 か月**・・・記事は、全部で 15
3. 15 のうちの 4 番目の記事、**【「罪人たち」に向き合う神の態度】**（ルカ 15 章）

取税人たちや罪人たち（＝遊女たち）が、話を聞こうとしてイエスの近くにやって来た。パリサイ人たちや律法学者たちは、「イエスは罪人たちを受け入れて、一緒に食事をしている」と文句を言った。そこでイエスは、パリサイ人たちや律法学者たちに 3 つのたとえ話を語った。その教えのポイントは次のとおり。

神は罪人たちを切り捨てはしない。神は、迷い出た者を見つけるまで探す。失われた者を注意深く見つける。霊的に死んでいた者が悔い改めて生き返り、神の元に帰るのを待ってくださっている。そして、罪人の一人が悔い改めて神に立ち返るなら、神は天で大いに喜んでくださる。
4. **場面はそのまま続いて、5 番目の記事、【富について】**（ルカ 16 章）

イエスは「不正な管理人のたとえ話」を語り、たとえ話の中に出て来る金持ちの富を「**不正の富**」と言った。律法では同胞から利息をとってはならないと命じられているのに、パリサイ人たちのような金持ちたちは、抜け道を作って自分たちの富を増し加えていたからである。イエスは、「人は神と富との両方に仕えることはできない」と教えた。
5. イエスの話を聞いていたパリサイ人たちは、イエスをあざ笑っていた。裕福であることは神の祝福を受けているしるしであって、自分たちは正しいと誇っていたからである。そこでイエスは、ある金持ちと貧しい人ラザロが死後どうなったか、実話をもって警告した。**死後の世界の行先を決めるのは、金持ちだったかどうかではない。神のことばに耳を傾け、神を信じたかどうか、である。**

6. **今回は、6 番目の記事**：場面は前からの続きだが、聞き手は弟子たちに絞られる。イエスは弟子たちに、富ではなく神に仕え、福音を宣べ伝えていく上で必要な心得を教える。
①人をつまずかせない、②自分もつまずかない、③兄弟が罪を犯したら戒め、悔い改めるなら何度でも赦せ、とイエスが命じると、弟子たちは「私たちの信仰を増し加えてください」と要望した。これに対して、イエスは「神の命令に従う姿勢」について教える。

□アウトライン 神の命令に従う姿勢 (ルカ 17 : 1~10)

1. だれに向かったの教えか (1 節 a)
2. 人をつまずかせるな (1b~2 節)
3. 自分もつまずくな (3 節 a)
4. 兄弟が罪を犯したら戒めよ、悔い改めるなら何度でも赦せ (3b~4 節)
5. 神の命令に従う姿勢 (5~10 節)

1. だれに向かったの教えか (1 節 a)

1 節 a イエスは弟子たちに言われた。

- 弟子たちに・・・直前ではイエスは、イエスを嘲っていたパリサイ人たちに向かつて富と死後の世界との関係について語った。場面はそのまま続くが、ここからイエスは弟子たちに向かつて語りかける。

2. 人をつまずかせるな (1b~2 節)

1b~2 節 「つまずきが起こるのは避けられませんが、つまずきをもたらす者はわざわざいです。その者にとっては、これらの小さい者たちの一人をつまずかせるより、ひき臼を首に結び付けられて、海に投げ込まれるほうがましです。

- つまずきが起こるのは避けられない・・・つまずきとは、日常的な小さな出来事を通して他人の欠点や問題が見えて、その人への信頼を失うことである。罪の性質を内側に持つ人間同士、社会の中にはつまずくことばかりである。
- つまずきをもたらす者はわざわざいだ・・・つまずきが起こるのは仕方がないとしても、イエスの弟子として歩もうとする信者は、そのことを軽く見てはならない。前の記事の中でも、イエスは「最も小さなことに忠実な人は、大きなことにも忠実である」(ルカ 16 : 10) と語り、大きなこと＝福音宣教に忠実であろうとするなら、小さな事に忠実であるようにと教えた。
- これらの小さい者たち・・・その場にいた子どもたち。子どもは大人の言動をよく見ている。イエスは、前にも弟子たちに子どもをつまずかせないようにと教えた (マタイ 18 : 6~14)。子どもたちのうちの「一人を」も、つまずかせないように、と配慮するなら、自ずと「子どものように自分を低くする」

(マタイ 18:4) ことになる。自分を低くすることが人をつまずかせないために、最も有効である。

3. 自分もつまずくな (3 節 a)

3 節 a あなたがたは、自分自身に気をつけなさい。

- 弟子たちは、自分自身がつまずかないようにも、気をつけねばならない。人をつまずかせないだけでなく、自分自身も他人につまずかない、という心得が大切である。

他の信者をつまずかせるような罪を犯した信者に対する対処の心得が、次に続く

4. 兄弟が罪を犯したら戒めよ、悔い改めるなら何度でも赦せ (3b~4 節)

3b~4 節 兄弟が罪を犯したなら、戒めなさい。そして悔い改めるなら、赦しなさい。一日に七回あなたに対して罪を犯しても、七回あなたのところに来て『悔い改めます』と言うなら、赦しなさい。

- 兄弟が罪を犯したら、戒めなさい・・・罪を見逃すのではなく、戒める
- 悔い改めるなら、赦しなさい・・・その兄弟が悔い改めるなら、赦す。戒めるのは、その兄弟との交わりを回復するためである。
- 一日に七回・・・言い換えれば、何度でも。赦しの回数に制限はない (参照 マタイ 18:21~22)

一日に七回、言い換えれば「何度でも」と言われて、使徒たちは、とても自分たちの今の信仰では、それはできない、と心配になった。そこで、使徒たちは、「自分たちの信仰を増し加えてください」という願いをイエスにする。イエスの答えは実に簡潔、【信仰の大小は関係ない、言われたことを言われたとおりにすること】である。神に仕えるときの心得、「神の命令に従う姿勢」についての教えが、次に続く。

4. 神の命令に従う姿勢 (5~10 節)

使徒たちの要望

5 節 使徒たちは主に言った。「私たちの信仰を増し加えてください。」

イエスの回答① 信仰の大小は関係ない

6 節 すると主は言われた。「もしあなたがたに、からし種ほどの信仰があれば、この

桑の木に『根本から抜かれて、海の中に植われ』と言うなら、あなたがたに従います。

- からし種ほどの信仰があれば・・・信仰は、自分の信仰深さや敬虔さによるのではなく、神の約束、神のことばに信頼し、神の命令に従うことである。自分の信仰の大小は関係ないから、「からし種ほど」の小さい信仰で十分である。
- 桑の木に『根本から抜かれて、海の中に植われ』と言うなら・・・「桑の木が根本から抜かれて、海の中に植えられる」というような不可能に見えることでも、神の約束に基づき、神の命令に従うことであるなら、そのとおりできる。

イエスの回答② 言われたことを言われたとおりにすること

7～10 節 あなたがたのだれかのところに、畑を耕すか羊を飼うしもべがいて、そのしもべが野から帰って来たら、『さあ、こちらに来て、食事をしなさい』と言うでしょうか。むしろ、『私の夕食の用意をし、私が食べたり飲んだりする間、帯を締めて給仕しなさい。おまえはその後で食べたり飲んだりしなさい』と言うのではないのでしょうか。しもべが命じられたことをしたからといって、主人はそのしもべに感謝するのでしょうか。同じようにあなたがたも、自分に命じられたことをすべて行ったら、『私たちは取るに足りないしもべです。なすべきことをしただけです』と言いなさい。

- 野から帰って来たら・・・野での仕事（畑での農耕作業または羊飼いの仕事）を終えて帰って来たら。当然疲れているけれど、これで仕事が終わりでではなく、主人のために夕食の用意をし、それを主人に給仕するという仕事が続く。
- しもべが命じられたことをしたからといって、主人はそのしもべに感謝するのでしょうか・・・しもべが命じられたことをするのは、当然のことである。特別なことではない。
- 同じようにあなたがたも、自分に命じられたことをすべて行ったら、『私たちは取るに足りないしもべです。なすべきことをしただけです』と言いなさい・・・しもべが主人に命じられたことをするのは当然のことであるのと同じように、イエスの弟子が神のことばに従い、命じられたことを行うのは当然のことである。

実は、それができるように力も与えられており、それを用いて仕えるだけである

1. 自分が今持っている小さな信仰を用いる
2. 命じられていることを行う力が、十分に与えられていることがわかる
3. 祈りに答えて神が働いてくださる現実を見る
4. 神に対する信頼がさらに確固たるものになる
5. 結果として、信仰が増し加えられていることに気づく